

目 的

アユのエドワジエラ・イクタルリ感染症については、平成 23 年に那珂川において本症によるアユの死亡が確認されて以降、保菌または本症による死亡が確認されている。一方、県内の他河川では本症によるアユの死亡は確認されていない。そこで、那珂川を含む主要 4 河川のアユについて本症原因菌の保菌検査を行い、県内河川における浸潤状況を調査した。

参考文献

- 1) アユ疾病対策協議会. アユ疾病に関する防疫指針 2011; 27-31. (指導環境室)

材料および方法

那珂川、鬼怒川、思川及び渡良瀬川において、8 月に採捕したアユを検体とした。那珂川については 3 地区（黒羽地区、烏山地区、茂木地区）、他河川については各 1 地区を検査対象とした。検体の採捕には各漁業協同組合の協力を得た。

保菌検査は、アユ疾病対策協議会が作成した「アユ疾病に関する防疫指針」<sup>1)</sup>に従い、菌の培養後、PCR法により行った。

結果および考察

那珂川では上流の 2 地区で陽性の検体が確認された（表 1）。また、同時期の茂木地区のヤナにおいて本症によって死亡したアユが確認された。一方、本症未発生の 3 河川では全て陰性であり、那珂川以外での保菌は確認されなかった。

表 1 検体数および検査結果

河川名（地区名）	採捕日	採捕方法	検体数(尾)	陽性検体数(尾)
（黒羽地区）	8/24	投網	20	2
那珂川（烏山地区）	8/24	投網	20	1
（茂木地区）	8/24	投網	19	0
鬼怒川	8/24	投網	5	0
思川	8/30	友釣・コロガン釣	17	0
渡良瀬川	8/24	投網	20	0

陰性の河川については、本症原因菌の侵入を防止するため、オトリアユの河川間の移動自粛や釣具の消毒などの対策が重要であり、定期的に本症原因菌の浸潤状況をモニタリングすることが望ましいと考えられる。